

天然の温泉は、悠久の大地の語り部である。

「蓼科三室源泉」は、「新・旧日本列島形成」のロマンを物語る名湯である。

大月短期大学地球科学名誉教授 田中 収

「八ヶ岳中信高原国定公園」 「蓼科温泉」「蓼科三室源泉」の温泉相特性

蓼科三室源泉は、現在、太平洋プレート、北アメリカプレート、ユーラシアプレート、フィリピン海プレートの四つのプレートが犇めく、世界的に極めてユニークな大地、新・旧日本列島の大きな裂け目、世界第一級の地質構造線がクロスするパワー！スポットに誕生した名湯中の名湯である。

本温泉は、泉温・湧出口温度八十三度の高温泉、湧出量・毎分二千二百リットル（日量約三千トン）泉質・酸性―ナトリウム―塩化物・硫酸塩温泉という豊かな、贅沢なかけ流しの名湯である。

「温泉効果としては、温泉熱や溶存物質による血液・リンパ循環の促進、自律神経の調整等の温熱効果。身体の中に酸素や栄養を多く取り入れ、老廃物を体外に排出して疲労をとる静水圧効果。人体の機能リズムの変化等による総合的生体調整作用効果。温泉成分等からの医学的効果。」

それに、本温泉郷は、北八ヶ岳ロープウェイやメルヘン街道から日本三大アルプスが一望され、尖石遺跡に代表される縄文の香り漂う「八ヶ岳中信高原国定公園」地域に位置し、諏訪大社の神様に由来する御室源泉地域は、大滝の滝ノ湯川、蓼

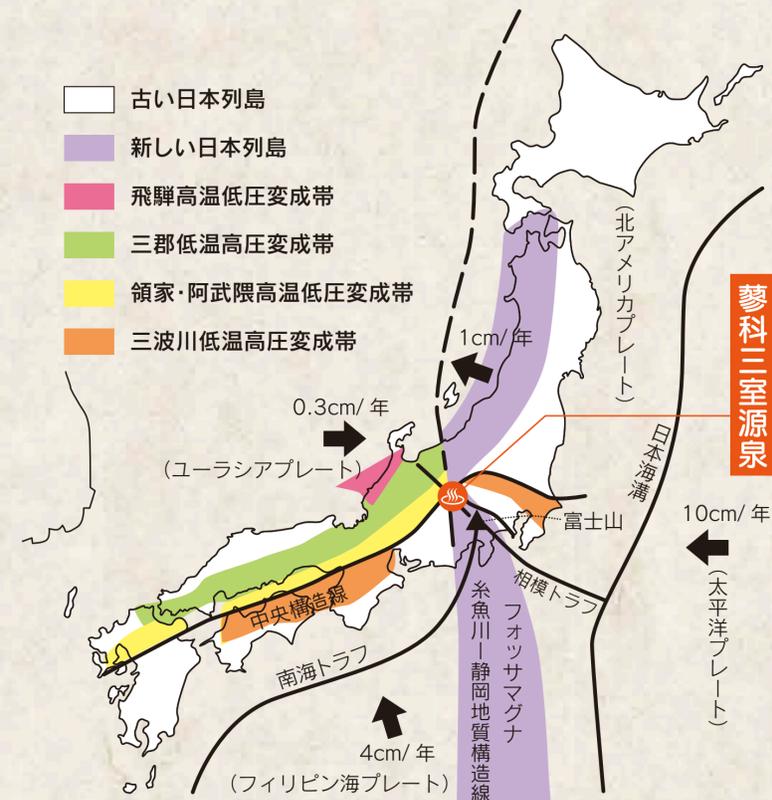
科湖のマイナスイオン、白樺、カラマツ等多様な樹林のフィトンチッドのシャワーを浴びる、転地療養にも秀でる標高千三百メートルの、高原の湯の里であり、「休養」・「保養」・「療養」の三養による体調の正常化や自己免疫力の増強等々、最も大切な健康条件を強めてくれる温泉相（スパ・ファシース）の特性を有する天然温泉である。

温泉成分的には、四百十ミリグラムのナトリウム、六十ミリグラムのカリウム、四十四ミリグラムのカルシウム、十一ミリグラムのマグネシウムの陽イオン、五百六十七ミリグラムの塩素、三百九十九ミリグラムの硫酸の陰イオン、八十三ミリグラムのメタケイ酸、三十六ミリグラムのメタホウ酸、三十三ミリグラムの遊離炭酸を有するペーハー三の酸性ナトリウム―塩化物―硫酸塩泉（食塩泉、芒硝泉）であり、食塩泉の「熱の湯」、「温まる湯」であり、芒硝泉の「動脈硬化の改善」、酸性泉の「皮膚病の改善」等も期待される「療養泉」として考えられる名湯である。

食事の直前、直後、飲酒の後等の入浴を避け、血液濃度を高めないうような良質な水分を十分に補給しながら、「かけ湯」「かぶり湯」、そして「半身浴」と十分に身体を温泉にならし、「全身浴」と利用していくことが良いと考える。

温度、湧出量、泉質、温泉環境、全て第一級の本温泉の温泉相は、大地の神様「ガイア」の大きい恵みであり、「蓼科三室源泉温泉」を正しく利用することで、より多くの人々が健康で至福の人生を送って頂けたら幸いである。

二〇一五年一月



古い日本列島に重なる新しい日本列島とプレート (1987 田中収)

温泉環境「温泉相」研究会会長
大地のロマン「石塊館」名誉館長
富士山博物館名誉館長
宝石貴金属協会名誉会長
大月短期大学「地球科学」名誉教授

田中 収